

父の教え、自然・水に学ぶ 米づくりの精神が 私の生き方の 礎となっている。

富士宮教会 植松克年さん

富士山の西麓に位置する静岡県富士宮市猪之頭。夏の冷涼な気候とミネラル豊富な湧水に恵まれ良米の産地としても知られる。その猪之頭で生まれた植松克年さんは、おいしい米や野菜を多くの人に食べてもらいたいとの思いで農業の研鑽を積んできた。そんな篤農家としての顔をもつ一方、オートキャンプ場を経営し、全国のキャンプ愛好家から大きな支持を得ている。そのキャンプ場経営は、父・米一郎さんから継承した、自然・水に学ぶ米づくりの精神によるところが大きいという。「故郷の自然を理解し、その特性を生かすことは、米づくりもキャンプ場も同じ。親父から教えられたことがキャンプ場経営に大いに役立っている」と植松さん。地元の人から「まめったい」（心を配り、こまめによく働くという意）と評されている。



水に学ぶ

水は、私たちにさまざまなことを教えています。「法」という字は「水」（さんずい）が「去る」と書きます。これは、水が自然に高いところから低いところへ流れるように、普遍的な法則の意味があります。それを私たちの日常にあてはめると、素直になるということがでしょう。また、人に合わせることで苦手な人には、どんな器にも収まる水の変幻自在な特性が大事なことを教えています。過去に縛られて苦しむ人に、ゆく川の流れば何を語るでしようか。

弘法大師空海に「水は自性なし 風に遇うてすなわち波たつ」の言葉がありますが、これは、定まった性をもたない水になぞらえ、日々の縁は受けとめ方しだいであるとも、また、ふれる縁によって心を波立たせることの多い私たちですが、そんなときには慌てず騒がず、現象をありのまま見つめ、受け容れることが大切であるというお諭しとも受けとめることができそうです。

立正佼成会